

産休・育休・時短勤務・柔軟な勤務形態を 国際比較から考える

アパショナータ、Inc.
パク・スックチャ
2014年4月14日

アジアと米国との両立施策比較

	出産休暇	育児休業	時短勤務
■ 日本	14週間	○	○
■ アメリカ	12週間(無休)	△	△
■ 香港	10週間	X	X
■ シンガポール	16週間	X	X
■ 台湾	8週間	△	X
■ 中国	98日	X	X

* 過去20年間において、日本の施策は大きく充実したが、米国とアジアではほとんど変化なし

国際競争力ランキング (2013年度版)

IMD (経営開発国際研究所)

1位	米国	11位	台湾
2位	スイス	12位	デンマーク
3位	香港	13位	ルクセンブルグ
4位	スウェーデン	14位	オランダ
5位	シンガポール	15位	マレーシア
6位	ノルウェー	16位	オーストラリア
7位	カナダ	17位	アイルランド
8位	UAE	18位	英国
9位	ドイツ	19位	イスラエル
10位	カタール	20位	フィンランド
		21位	中国
		22位	韓国
		23位	オーストリア
		24位	日本

評価項目:

- ・経済成長
- ・政府の効率
- ・ビジネスの効率化
- ・インフラの整備

・・・の4分野 / 321項目
から、競争力分析

長期の育休・時短勤務についての個人的意見

- 育休と時短勤務に関する支障は海外では見られない、日本特有の課題
- 夫の家庭責任免除期間の長期化により、男女の役割分担を強化
- 「出産⇒産休⇒育休⇒時短勤務」のパターン化
- 妻のキャリアのスローダウン期間の長期化は、女性活躍推進への重し
- 男性社員の育休・時短勤務は、自社ではなく、「妻の会社」の女性活躍推進へ貢献
- 「人」ではなく、「構造」の問題

米国：柔軟な勤務形態

(Flexible Work Arrangements: FWA)

- 企業が一番成功したと感じる
ワーク／ライフ・バランスへの取り組み：
* 柔軟な勤務形態
- 従業員が一番感謝している
ワーク／ライフ・バランスへの取り組み：
* 柔軟な勤務形態
- 最も活用されている柔軟な勤務形態
 - 1) フレックスタイム
 - 2) テレワーク(在宅勤務、etc)

出所: Center for Work and Family, The Bay Area Work/Life Inventory

柔軟な勤務形態の成功のカギ

- ビジネス理由の明確化
- ビジネスニーズに沿った「許可制」
- マネージャーと従業員の役割、利用方法などの明確な提示
- 仕事へ支障が出ない運営
- 成果にフォーカスした評価
- 「時間管理」ではなく、「パフォーマンス管理」